

# 成績評価の組織的検証 モニタリングの試行結果を踏まえて

田中正弘

教学マネジメント室教育力向上部門長



筑波大学  
*University of Tsukuba*

# 目次

- ・ 本発表の目的
- ・ 組織的検証の社会的背景
- ・ 他大学の対応例
- ・ 本学の課題
- ・ まとめ

# 本発表の目的

- ・ 成績評価の組織的検証が求められるようになった社会的背景を説明する。
- ・ その求めに対する他大学の対応を例示する。
- ・ 昨年度実施したモニタリングの試行結果から、本学の課題を明らかにする。
- ・ 各プログラムでの対応のあり方を考える。

# 組織的検証の社会的背景

# 学生中心の教育

- ・ 2000年頃に、教員中心の教育から学生中心の教育へと、パラダイム転換が起こった。
- ・ その結果、大学は、大学・教員の利益より、学生の利益の確保を優先すべき、というコンセンサスが形成された。
- ・ 成績評価に関する学生の利益(例)
  - 評価基準を知らされている。
  - 不当な評価をされない。
  - 評価結果への異議申立ができる。

中教審の  
議題に

# 中央教育審議会答申の指摘

- ・ 中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年12月24日）は、成績評価の現状と課題について、下記の指摘をした。
  - 我が国の大学は、成績評価について、個々の**教員の裁量に依存**しており、**組織的な取組が弱い**。従来のみままでは、「大学全入」時代の学生の変容に際し、学生確保という経営上の要請も相まって、なし崩し的に安易な成績評価が広がってしまう恐れがある(26頁)。

組織的に取り組んでいることを**認証評価で確認**することになった。

# 認証評価で求められる最低限の事項(1/4)

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

分析項目6-6-1 **成績評価基準**を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている**学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定**していること

## 【分析の手順】

- ・成績評価基準については、評語(A、B、C等)を適用する際の科目の到達目標を考慮した判断の基準について組織として定めたものを確認する。
- ※成績評価基準は、教育課程方針に明記されていることも想定される。
- ※学習成果の評価の方針は分析項目6-2-1で確認。

## 【分析項目に係る根拠資料・データ】

- ・成績評価基準

# 認証評価で求められる最低限の事項(2/4)

## 分析項目6-6-2 成績評価基準を学生に周知していること

### 【分析の手順】

- ・学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。

### 【分析項目に係る根拠資料・データ】

- ・成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所



# 認証評価で求められる最低限の事項(3/4)

分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること

## 【分析の手順】

- ・学習成果の評価の方針に照らして成績評価の分布の点検を組織的に実施していることを確認する。
  - ・GPA制度を実施している場合は、その目的と実施状況について確認する。
  - ・個人指導等が中心となる科目の場合は、成績評価の客観性を担保するための措置について確認する。
  - ・共同教育課程を編成する学科の場合は、構成大学を通じて一貫したものとなっていることを確認する。
- ※成績評価分布についてのガイドライン(Aをクラスの30%程度とするなど)の策定や成績評価の妥当性の事後チェック(偏りの点検)、答案の返却、模範解答あるいは採点基準の提示等について確認。
- ※45時間の学習時間の確保の実態に関する調査を実施している場合には、その資料に照らして確認。

## 【分析項目に係る根拠資料・データ】

- ・成績評価の分布表
- ・成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料
- ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料
- ・(個人指導等が中心となる科目の場合)成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料

# 認証評価で求められる最低限の事項(4/4)

分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること

## 【分析の手順】

- ・成績に関する異議を受け付ける窓口が教員のみでないこと、受付後の対応の手順、様式等について確認する。
- ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等について確認する。
- ・成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)が、検証できる状況にあることを確認する。

## 【分析項目に係る根拠資料・データ】

- ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料
- ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ・成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)を保存することを定めている規定類

# モニタリングのルーブリックへの反映

認証評価で求められる最低限の事項を、モニタリングのルーブリック(Minimal)に反映した。

Defect (D) 〔第1段階〕	Weak (W) 〔第2段階〕	Minimal (M) 〔第3段階〕	Satisfactory (S) 〔第4段階〕	Excellent (E) 〔第5段階〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価について教育組織として何ら方針を定めていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価について教育組織としての方針を定めている。</li> <li>・一方、成績評価基準が客観性に欠ける科目や出席点を設ける科目があるなど徹底されていない。あるいは、成績評価の根拠となる資料が検証できる状況にない、成績評価分布の検証を行っていないなどの課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価について教育組織としての方針を定めている。</li> <li>・シラバスの組織的なチェックを通して成績評価基準の客観性を確保している。</li> <li>・成績評価の根拠となる資料が検証できる状況にある。</li> <li>・成績評価分布の検証を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価について教育組織としての方針を定めている。</li> <li>・シラバスの組織的なチェックを通して成績評価基準の客観性を確保している。</li> <li>・成績評価の根拠となる資料が検証できる状況にある。</li> <li>・成績評価分布の検証・改善活動を他学群・学類や他大学とのベンチマークを含め行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価について教育組織としての方針を定めている。</li> <li>・シラバスの組織的なチェックを通して成績評価基準の客観性を確保している。</li> <li>・成績評価の根拠となる資料が組織的に保存されている。</li> <li>・成績評価分布の検証・改善活動を他学群・学類や他大学とのベンチマークを含め、学期ごとあるいは年度ごとに行われている。</li> </ul>

# 他大学の対応例

# 成績評価基準の例(お茶の水女子大学)

## レターグレードと評点区間, 及び評価基準表

S (90点以上)	基本的な目標を十分に達成し, きわめて優秀な成果をおさめている。
A (90点未満から80点以上)	基本的な目標を十分に達成している。
B (80点未満から70点以上)	基本的な目標を達成している。
C (70点未満から60点以上)	基本的な目標を <b>最低限度達成</b> している。
D (60点未満不合格)	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

S評価を評価対象者の15%以内(履修者数が10人未満の場合は2名以下)に留める。

履修放棄によって評定できない場合はD(不合格)となる。

レターグレードで評定する場合の評点は, S=95, A=85, B=75, C=65, D(不合格)=55となる。

出典:お茶の水女子大学「シラバス(成績評価基準)」

([http://www.ocha.ac.jp/education/info/about\\_grade.html](http://www.ocha.ac.jp/education/info/about_grade.html))

# 成績評価基準の例(東京大学文学部)

区分	基準
優上	当該科目の目標を十分達成し、極めて優秀な成果をおさめている
優	当該科目の目標を十分達成している
良	当該科目の目標を達成している
可	当該科目の目標を <b>最低限達成</b> している
不可	当該科目の目標を達成していない

1. 成績の評価は、優上、優、良、可及び不可の5等とし、優上、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。
2. 成績評価区分及び成績評価基準はすべての授業科目に適用する。
3. 平成26年度夏学期開講科目から適用する。

出典：東京大学文学部「成績評価基準(学部)」(<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/student/evaluation.html>)

# 本学(全学)で定める成績評価基準

評語	GP (評価点) ※学群のみ	評価基準	参考(100 点満点での 目安)
A+	4.3	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている	90点以上
A	4	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている	80～89点
B	3	到達目標を達成している	70～79点
C	2	到達目標を <b>最低限達成</b> している	60～69点
D	0	到達目標を達成していない	60点未満
P	—	定められた学修水準に到達している	—
F	—	定められた学修水準に到達していない	—

出典:「筑波大学学群試験実施要項」及び「大学院における授業科目の試験の実施等に関する取扱いについて」

# 確認事項(評価規準と評価基準)

## ・ 評価規準

- シラバスに記載される「授業の到達目標」のこと。
  - ・ 到達目標は「学生は～ができる」と書かれる。よって、できたか、できないかの合否判定しかできない。

## ・ 評価基準

- 到達目標をどの程度達成したかを定めたもの。
  - ・ 到達目標を最低限達成したら、Cと判断するなど。

絶対評価:各学生が到達目標をどの程度達成できたかによって個別に評価すること  
相対評価:他の学生と比べて、どれだけ優れて(劣って)いるかで評価すること



# 評価検証の例(大阪大谷大学)

## ・ 成績評価の検証

- 学長および学部長は、各授業科目の目的や授業方法および特性に応じて**成績評価の妥当性を検証**し、成績分布に著しい偏りがあると判断した場合、当該科目の**担当教員に対して**学習到達目標・評価基準および評価方法の適切性やその成績分布に至った理由について**説明を求める**ことができる。担当教員からの説明の妥当性は協議会で判断するものとする。
  - ・ ただし、学外協力機関からの評価に基づいて成績評価が行われる実習科目、認定科目についてはその限りではない。

# 評価検証の例(岩手医科大学)

## ・ 医学部の評価方針: 抜粋

1. 講義・演習のみの科目では、知識とその応用を査定します。実習を伴う科目では、技能、態度、コミュニケーション能力も評価します。臨床現場での実習科目では更に倫理・遵法精神と利他精神を評価対象にします。
2. 知識とその応用に関しては筆記試験や口頭試問、技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価(レポート、スケッチ、段階的スキル・行動表と業務現場評価法、および自己進捗度表等を取りまとめたポートフォリオ)で査定します。
3. 筆記試験、口頭試問、実技試験は数値化して達成度を査定します。実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を査定します。
4. 評価方法の選定と合否基準の設定にあたっては、**その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、担当委員会にて定期的に見直し**を行い、次年度開始時に被評価者と評価者にシラバスで呈示します。

出典: 岩手医科大学(2017)「評価方針(アセスメント・ポリシー)」(<http://www.iwate-med.ac.jp/education/assessmentpolicy/>)

# 評価結果分布公表の例(北海道大学)

北海道大学 成績分布WEB公開システム  
- 成績評価分布状況表 -

※2005年度以降の学部入学者の履修科目を対象としています。  
ただし、全学教育科目の2006年度第1学期分は、2006年度入学者を対象としています。  
※無欠=評価せず (2006年度入学者から無欠は「不可」評価となりました。)  
※2015年度以降の学部入学者から新GPA制度の導入により、11段階の成績評価方式が採用されています。  
5段階評価と11段階評価が混在する科目についてはそれぞれの平均値を2段書きにしています。  
※履修者5名以下の科目は除いています。  
5段階評価と11段階評価が混在する場合、履修者5名以下の評価のみを省きます。

評価年度・学期	課程	開講学部	データ種別	表示内容	科目名検索	科目数
2018年度 2学期	学士課程	教育学部	授業科目・担当教員別	全て		62

※各科目の上段は11段階の学生、下段は5段階評価の学生をしめす。

表示件数: 30件毎 ▾

授業科目名	講義題目名	クラス	担当教員名	履修者数	A+(%)	A(%)	A-(%)	B+(%)	B(%)	B-(%)	C+(%)	C(%)	D(%)	D-(%)	F(%)	GPA
					秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)							
1 教育学国際講義	ESD最終報告会2018		水野 眞佐夫	13	7.7	53.8	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.79
2 教育学特別講義	Education for Sustainable Development 2018		池田 恵子	14	0.0	14.3	50.0	14.3	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.51
3 教育基礎論講義	学校経営論		篠原 岳司	53	0.0	7.5	18.9	30.2	18.9	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	18.9	2.72
				6		16.7	33.3	0.0	0.0	50.0		1.67				
4 教育基礎論講義	学校社会学		浅川 和幸	48	0.0	2.1	12.5	8.3	20.8	16.7	12.5	6.3	0.0	0.0	20.8	2.31
				7		14.3	0.0	14.3	0.0	71.4		0.86				
5 教育基礎論講義	教育思想史		白水 浩信	32	18.8	12.5	15.6	18.8	9.4	6.3	3.1	3.1	0.0	0.0	12.5	3.09
6 教育基礎論講義	教育文化史		北村 嘉恵	18	11.1	0.0	5.6	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	1.68
7 教育基礎論講義	近現代学校史		近藤 健一郎	28	10.7	7.1	3.6	10.7	10.7	14.3	7.1	10.7	7.1	0.0	17.9	2.39
8 教育社会科学講義	教育社会学		小内 透	58	0.0	0.0	1.7	3.4	8.6	22.4	6.9	31.0	12.1	1.7	12.1	1.95
9 教育社会科学講義	教育福祉論		鳥山 まどか	53	11.3	17.0	15.1	26.4	24.5	0.0	0.0	0.0	5.7	0.0	0.0	3.39

出典: 北海道大学成績分布WEB公開システム

(<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/seiseki/GradeDistResult11.aspx>)

# モニタリングの施行結果 (成績評価のみ)

# 自己評価の高い項目⇒低い項目

項目	点数
① 卒業生選抜委員の選抜	102
②	92
③	83
④	82
⑤	81
⑥	80
⑦	77
⑧	73
⑨	71
⑩	64
⑪	64

# WeakやDefectの評価理由(1/4)

自己評価	評価理由
Weak	月 で と
Weak	月 に る の
Weak	月 の た る
Weak	月 の ま

# WeakやDefectの評価理由(2/4)

自己評価	評価理由
Weak	月... 言... 林... ...
Weak	本... ...
Weak	月... 本... ...
Weak	月... 本... ...

# WeakやDefectの評価理由(3/4)

自己評価	評価理由
Weak	[Redacted]
Weak	[Redacted]
Weak	[Redacted]

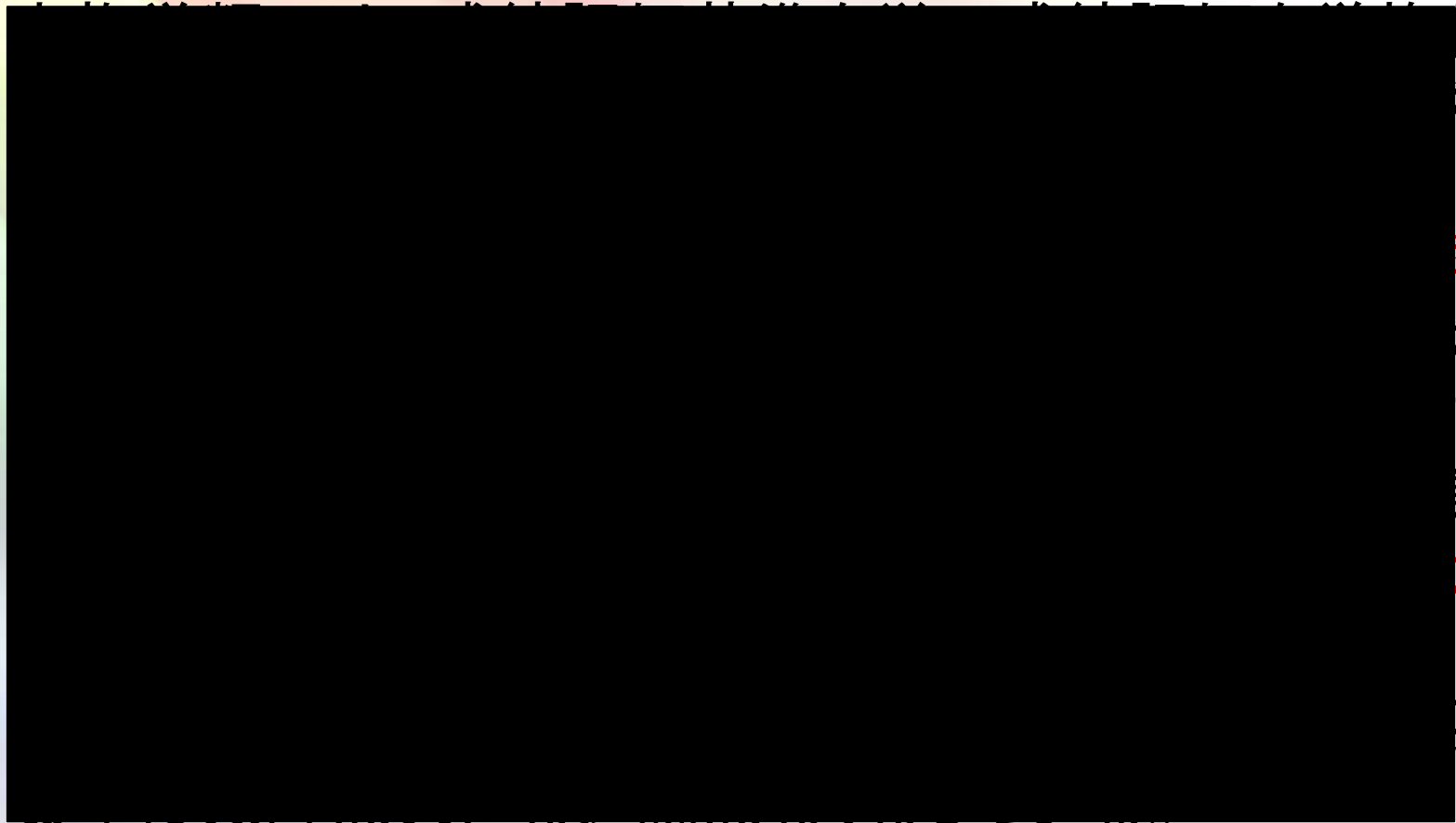


# WeakやDefectの評価理由(4/4)

自己評価	評価理由
Weak	月 の 月 文 く 月 一
Defect	月 一

# 学内のグッドプラクティス(1/3)

- ・



ビ  
。め  
。め  
。め

以下は、この資料の一部であり、詳細は別添付資料を参照してください。

# 学内のグッドプラクティス(2/3)

- ・ [Redacted]
- ・ [Redacted]
- ・ [Redacted]

# 学内のグッドプラクティス(3/3)

- ・ [Redacted content]

# まとめ

# まとめ

- ・ 評価基準の策定や検証体制の構築について、その適切な方法は、プログラム(学問分野)によって異なる(と思います)。
  - 他学群・他学類, 他大学の事例を参考に, その方法を自ら見いださねばなりません。
- ・ 本報告が, その活動の契機になれば, とても嬉しいことです。

ご清聴ありがとうございました。